

# OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

## 第27回

### オルタナティブな「豊かさ」発見！ 映画『おだやかな革命』が伝えること

一般社団法人 洸楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

#### ▼東北発の映画 『おだやかな革命』

現在、上映中の映画ではあるが、これを引用し OfByFor との関係について述べる。それは、以下の理由による。

映画『おだやかな革命』は、山形県鶴岡市で映画制作の事業法人を主宰している渡辺智史氏の最新の監督作品である。ちなみに、鶴岡市は筆者の出身地で、同氏は筆者の長男と同年齢の36歳。筆者の想いを、この映画は体現してくれている。

映画制作事業組合「いでは堂」は、出羽の国に掛けた名称であるようで行った。この行事で、東北を背負っている。とすると、3・11の東日本大震災を無視できない。蔵元として日本酒の講義をお願いした。

▼「豊かさ」は、一辺倒ではない  
偶然、街中の骨董屋に入ると、筆者の大学、学級の卒業生が、移住し働いているという。喜多方は、大喜と似て磁場が強い。

▼東京でのトークイベント  
映画を観た後、東京有楽町での渡辺監督と、映画に出演した西栗倉村の井筒氏のトークイベントに参加した。映画のメイキングの話のほか、両人の思考プロセスを知ることが出来た。筆者が感

心したのは二人のテンポある対話と語りであった。トークの主題は、「ローライゼイション」であったが、彼らの思考は、地域課題の解決を、まず答えをドンドン出していくという手法であるが、基礎としての学歴や異業種実務があり、悲壮感や負い目はない。

映画のタイトルである『おだやかな革命』にも、興味がある。英語の表記は、"Silent Revolution" としている。

田舎は、都会に負けないオルタナティブな「心の豊かさ」が深いのである。また、彼らの取り組みである事業は、経済的にも「豊かさ」があるのである。そろそろ私たちもマイノリティチェンジし、穏やかに、果敢に取り組みたいものである。



▼仕掛け人は、彌右衛門さん  
筆者は、本紙第83号(2017年7月24日発行)で紹介したように、ローカル鉄道応援酒「鐵道の道」の活動をしているが、その関連行事として2012年6月に、「鉄道の道フォーラム」を東京

2011年の3・11で福島が受けた原発による犠牲と被害を目の当たりにした。首都圏を支えることを強いられていた郷土の状況を再認識し、電力やエネルギーの公正化に向けた取り組みを始めたのであった。それは、ご当地エネルギー協会の発足、新電力としての会津電力へと継続し、さらに全国に発展している。

3・11が原因で露呈した原発システムの問題点。そして、広域で長時間にわたる大きな犠牲。これを学びとし、そこから脱却し、エネルギーシフト、そして何よりもマイノリティチェンジをしなければならぬ日本、という現状がある。

自然エネルギーは地域資源であり、地域分散型エネルギーである。しかし、なかなかその利活用は進まない。この映画では、地域資源を移住者が火付け役となり、域内外からの投資を得て事業化し、先導する様子、それに域内者が関わりビジネスとして活性化できる様子をドキュメンタリーとして伝えている。

この手法は、他の地域にも波及するものと期待される。その対象や内容は、それぞれの地域で異なり、特徴化される。地域は、「一辺倒ではない」というメイン

「おだやかな革命」で顔を満ちている。トークのテンポのよさは、語りたいうこと、楽しいことが沢山あるからであろう。

田舎は、都会に負けないオルタナティブな「心の豊かさ」が深いのである。また、彼らの取り組みである事業は、経済的にも「豊かさ」があるのである。そろそろ私たちもマイノリティチェンジし、穏やかに、果敢に取り組みたいものである。

連載・イベント・新技術